

令和8年度

助任小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的な学びにつながる、単元構想や授業の導入・展開の工夫
- 伝え合い、学びを深めることができる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 学力向上担当 教諭	委員	校長(総括) 教頭(総括補佐) 教頭(総括補佐) 教諭(教務主任) 教諭(研修主任) 教諭(国語科主任)	教諭(1学年) 教諭(2学年) 教諭(3学年) 教諭(4学年) 教諭(5学年) 教諭(6学年)

校長



【各校の取組状況の把握について】

学期に1回程度実施予定の学力向上検討委員会と各学年の授業研究会を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習の基礎的・基本的事項についての力が身に付き、基礎学力の高い傾向の児童が多い。 ●学力の二極化傾向が見られ、計算や漢字などの基礎的・基本的事項が十分に身に付いていない児童が一定数いる。	・学びを広げ深める場面で活用できる知識・技能を十分に身に付けている。	・有効な授業展開を学校全体で共有し、子どもが安心して学習に取り組める環境を整える。 ・「話す聞くセブン」を活用し、自分の考えを話したり、他者の考えを聞いたりする力を養う。 ・ICT 機器や思考ツールを活用し、表現に必要な知識・技能の定着を図る。そのため、ICT 機器の活用方法について校内で共有する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的に応じて自分の考えをもったり、表現したりすることができる児童が多い。 ●友達の意見を聞いて自分の考えと比べることができる児童が少ない。	・友達と自分の考えを比べながら、考えを広めたり深めたりすることができる。	・ペアやグループ及び全体といった学習形態を工夫することにより、自分の考えを説明したり友達の意見を聞いたりすることができる場と時間を確保する。 ・学習過程に、自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりする場を位置付ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの児童が、課題に真面目に取り組むことができる。 ●学習に対して手立てが必要な児童や自信のない児童もいる。	・自分で課題を見つけ、楽しみながら学習に取り組むことができる。 ・既習事項を活用したり、新しい方法を見出したりしながら、意欲的に問題解決ができる。	・課題を明確にもてる授業構成を考え、ICTを活用しながら多様な学び方を展開する。 ・児童の疑問を大切にしながらめあてを設定したり、個々の成長に気付くことができるように振り返りを書いたりする。 ・手立てが必要な児童や自信のない児童に対してスモールステップの課題を設定したり、ゴールを示したりすることで、見通しをもって課題解決を図ることができるようにする。			

令和8年度 学力向上ロードマップ

